

灼熱地獄がようやく終わりを告げ、このところの朝夕は許せる気温に。友との再会と宿題とのはざままで、悲喜こもごもといった子らの顔が目には浮かびます。現在会員登録数 2,718 人さま。次号は 9 月 20 日発行の予定です／

＋----- ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 96

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■
【1】お知らせ

● 「おはなしモノレール」参加者募集

大阪高速鉄道「万博記念公園駅」から「彩都西駅」まで、貸切モノレールに乗って、車内で絵本や「おはなし」を楽しみ、彩都の会場では「人形劇」を観ていただくお客様向けのイベントです。5歳から小学校3年生までのお子様と保護者の方、あわせて240人を募集します。

9月22日（土）で、参加費は、お一人500円（大人・子ども同額）です。

申込締切は9月10日（月）必着。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html#300922

● 「第35回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（水）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第32号の原稿を募集しています。お申し込み、詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

◇ 「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要 第31号」を販売しています。

発行：当財団 2018年3月 A5判 128頁 1400円＋税

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【2】コラム
■ ----- ■

《1》 この本読んだ？ Yasuko's & Aya's Talk

『ケンタウロスのポロス』ロベルト・ピウミーニ/作 長野徹/訳 佐竹美保/装画・さし絵 岩波書店 2018年5月 対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ:下半身が馬で上半身が人間のケンタウロスのポロスは神になる修行中の英雄ヘラクレスを食事に招いたが、他のケンタウロスがヘラクレスを攻撃し、ヘラクレスが反撃する。仲間に逆恨みされて襲われるのを恐れたポロスは「言葉を語る木々の森」を探す旅に出る。ケンタウロスのネボスは、よこしまな心を持ってポロスを殺そうとするほか、ポロスは何度も命が危険にさらされる。ギリシャ神話を舞台にしたファンタジー作品。

A: この作品はイタリア児童文学の大御所であるピウミーニの作品ですが、とても新鮮な気持ちで読みました。イタリアでの刊行時、60代後半のピウミーニから若者への応援歌のように感じられたのです。

Y: ギリシャ神話の登場人物であるケンタウロスのポロスが探究の旅に出るというストーリーで、「旅は知識である 旅は知恵である 旅は気づきである。」という木々の森での神の言葉が、目的を知らなくてもとにかく旅に出ることで見つかることがあるというメッセージと読み取れました。

A: ポロスは、他の荒くれ者のケンタウロスと違って孤独を好み、深く考える性格です。ここには、他の人と違って自分の道を進むことの意義を伝えているようにも思いました。

また、ピウミーニはギリシャ神話を題材にした作品を複数書いているため、ギリシャ神話に造詣が深く、ギリシャ神話のおもしろさを伝える本としても書かれたように思います。

Y: ヘラクレスの難行やアルテミス、ゼウスなど、おなじみの神たちがエーゲ海を舞台に登場することでスケールの大きな物語になっていると思いました。そして、神話を借りながら、権力や陰謀という今の社会ともつながるテーマを描いています。

A: ギリシャ神話と同様、女性だけのアマゾン族も出てきます。

Y: アマゾン族にさらわれ、一族の一人にされていた少女、イリーネは、途中からポロスと一緒に旅するようになります。この場面は心ときめきました。

A: やはり、イタリアはアモーレの国。最後は愛ですね。

* 今回のゲストはイタリア語の翻訳家のよしとみ あや（A）さんです。

《2》 イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第36回「ポラーノの広場」
広場の星空

くうつくしい夏のそらには銀河がいまわたくしどもの来た方からだんだんそっ

ちへまわりかけて南のまっくろな地平線の上のあたりではぼんやり白く爆発したようになっていました。)

「銀河鉄道の夜」(当メルマガ NO. 90-94)や「双子の星」(当メルマガ NO. 95)から不意に連想したのは、「ポラーノの広場」のこの一節です。

「ポラーノの広場」は、モリーオ市博物館の第十八等官だったレオーノキューストが「そのころわたくしは……」とって語り出す物語ですが、その「わたくし」が遁げた山羊を連れ戻してくれたファゼーロと出会うところからはじまります。手もとの新潮文庫版『ポラーノの広場』巻末の「注解」(天沢退二郎)には、「レオーノ」はエスペラント語で獅子座、「しし座」に飼われていた山羊が故郷の「やぎ座」の方へ逃げ出した、ということになる」とあって、物語が星座世界と対応することを教えてくれます。

「わたくし」にポラーノの広場のことを思い出させたのも、ファゼーロでした。「昔ばなしなんだけれどもこのごろまたあるんだ。」というファゼーロに、「わたくし」は、「野はらのまんなかの祭のあるところだろう。あのつめくさの花の番号を数えて行くというのだろう。」とこたえます。ところが、実際にポラーノの広場をたずねてみると、山猫博士の選挙運動のための宴会がひらかれていました。こんなふうに広場をめぐる物語は変転して、とらえにくく、その物語は五つもあるというのは、安藤恭子の整理です(「ポラーノの広場」2003年)。

やがて、ファゼーロたちは産業組合を作り、ハムと皮類と醋酸とオートミルをモリーオ市やセナード市に出荷することに成功します。これが広場の五つめの物語ですが、いま「わたくし」はもう、モリーオ市を去り、「友だちのいないにぎやかなながら荒さんだトキーオの市のはげしい輪転器の音のとなりの室」で博物の記事を書いています。この物語は、「わたくし」の現在から「あの年のイーハトーヴォの五月から十月まで」を遠く振り返るものです。それでも、冒頭に引いた広場の星空は、やはり、たしかかなものとして読者の心にのこるのです。(馬車別当)

(本文の引用は、新潮文庫版『ポラーノの広場』によりました。)

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 96

その11 さまざまなご質問にお答えします(14) ボランティアグループで研修会

質問：ボランティアグループで研修会をしたいのですが、予算がありません。

まずは、地域の図書館に相談してみましよう。司書が講師をしてくれるケースがあります。特に本の紹介は、日ごろから本を選び、情報を持っている司書の方に期待したいところです。また、図書館がキャリアを積んだボランティアを紹介してくれて、その人が絵本の選び方やおはなしの語り方、プログラムの組み方などについて話してくれるところもあります。

講師がいなくても、多くのボランティアグループが理論書を読み合ったり、テーマを決めて話し合ったり、発表者を決めて勉強会をしたりしています。

講師料が必要な講師に依頼するときには、自分たちだけのグループではなく、同じ地域の他のグループにも呼びかけることで、経費の負担を減らすことも可能です。

また、広く一般の人にも呼びかけることのできる講座内容であれば、「子どもゆめ基金」<https://yumekikin.niye.go.jp/> などの補助金を申請することも可能です。

* 次号は「その 11 さまざまなご質問にお答えします (15)」の予定です。
ぜひ、ご質問やご意見をお待ちしております。(Y)

《 4 》 行って来ました！

芦屋市立美術博物館で9月9日まで開催中の特別展「チャペック兄弟と子どもの世界」に行ってきました。兄ヨゼフ・チャペックと弟カレル・チャペックは20世紀初頭から活躍したチェコの芸術家です。この展覧会では、油彩、パステル画、ドローイング、写真、新聞など350点以上が展示され、兄弟の生涯とともに紹介されています。

展示されている絵画作品は主に兄ヨゼフによるものでした。多くの作品が子どもをモチーフにしています。その中の「飛行機」という油彩は、線で区切られた風景の中に子どもが二人、空の飛行機を見上げています。ヨゼフはキュビズムの画家ですが、子どもの視点を感じられ、あたたかさやおおらかさも感じられます。子どもが遊んでいる「水浴び」や「蝶々と子どもたち」などのパステル画は、やわらかな色とりどりの曲線が使われ、目鼻などが省略されていてもみんな楽しそうに見えます。

カレルが文を書き、ヨゼフが挿絵を担当した『長い長いお医者さんの話』の原画など、紙にインクで描かれた線画もたくさんありました。兄弟が担当していた新聞の日曜版の児童向け付録は、ヨゼフによる弟カレルと言うことを聞かない犬とのやりとりの絵で思わず笑いがこみ上げてきます。

カレルが48歳で病死した翌年の1939年、ヨゼフはナチスに政治犯として逮捕され、1945年に強制収容所で亡くなります。戦争が暗い影を落としている中で二人がユーモアを忘れず、子どものようなまっすぐな目で絵や文を創作していたことに強く心を動かされました。(K)

■ ----- ■
【3】全国のイベント紹介

● 人形劇団クラルテ 創立70周年記念公演『はてしない物語』

日 時：〈1〉9月2日(日) 午前10時30分～、午後3時～

〈2〉9月9日(日) 午前10時30分～、午後3時～

〈3〉9月15日(土) 午後2時～

会 場：〈1〉新神戸オリエンタル劇場 〈2〉クレオ大阪中央・ホール

〈3〉吹田市文化会館メシアター・中ホール

入場料：有料 申込み：必要

問合せ：人形劇団クラルテ

● 【資料展示】発見！「明治ポンチ本」 明治末期の出版流通空間

会 期：開催中～10月31日(水)

会 場：大阪府立中央図書館 国際児童文学館(東大阪市荒本)

主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、

こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【４】プレゼント

今号のコラム《１》「この本読んだ？」で紹介しました『ケンタウロスのポロス』を１名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.96 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は９月１０日(月)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

徒歩での通勤から、久しぶりに電車を乗り継いで通勤に変わり、本を読む習慣が戻ってきた。昔は、新聞か本を読む人と睡眠をむさぼっている人に大別できたが、近ごろはスマホに夢中な人がほとんど。様々な情報収集・発信は決して悪いことではないが、乗換時もそのまま目を離さないのはいかがなものか。それぞれがマナーを守って自分の時間を楽しみたいものです。(T A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
